

平成27年11月12日

豊田市教育委員会
教育長 福嶋 兼光 様

豊田市生涯学習審議会
会長 平野 敬一

豊田市文化ゾーンにおける文化創造拠点及び歴史継承拠点の整備方針について
(答 申)

平成26年9月26日付け豊教文発第882号で諮問のありました豊田市文化ゾーンにおける文化創造拠点及び歴史継承拠点の整備方針について、本審議会において、これまで10回（全体会4回・部会6回）にわたる会議を重ね慎重に審議を行い、下記のとおり結論を得たので答申します。

記

- 1 豊田市文化ゾーン基本構想に記載された文化ゾーンの持つべき「鑑賞」「創造」「発表」「歴史継承」の4つの機能を活かし、今後それらが密に連携することで、さらに充実させていくべきと考えます。
- 2 二つの拠点の整備方針については、次のとおりとします。
 - (1) 文化創造拠点は、新たな施設を建設するのではなく、既に拠点施設となっている市民文化会館の改修などで、その機能を強化できると考えます。
なお、留意する点としては、施設における人材、体制、運営方法等の充実も考慮することで、より本市の文化芸術活動を強化していくよう検討を進めることを求めます。
 - (2) 歴史継承拠点は、豊田市の歴史や文化財を未来へ継承し、郷土愛を醸成していくための拠点として、新規に整備することが必要と考えます。
その基本方針としては、歴史と自然を一体的に取り上げる総合的な博物館として整備することとし、歴史背景・敷地利用・集客等を考慮すると、旧愛知県立豊田東高等学校跡地が最適の立地と考えます。
なお、施設の規模・機能等の詳細については、今後の基本構想・基本計画で検討すべきと考えます。

教育委員会におかれましては、この答申及び審議過程で各委員から出された意見を十分に踏まえ、豊田市文化ゾーンにおける整備方針について検討を進めることを求めます。

豊田市文化ゾーンにおける文化創造拠点及び歴史継承拠点の
整備方針について

平成27年11月
豊田市生涯学習審議会

目 次

はじめに	1
1 これまでの検討経緯	1
2 現状と課題	3
3 整備方針	5
4 実現に向けて	6

資料

資料1 文化創造拠点

【1】豊田市の文化芸術活動の現状	8
【2】全市的施設の機能別利用状況のまとめ	17

資料2 歴史継承拠点

【1】郷土資料館の現状と博物館の将来像	19
【2】平成26年度文化財施設利用状況	28

資料3 市内の文化関連施設の立地状況

豊田市生涯学習審議会委員名簿	30
----------------	----

諮問書	31
-----	----

はじめに

諮問理由

本市は、平成2年に「豊田市文化ゾーン整備基本構想」を策定し、平成22年の「豊田市文化ゾーン基本構想」では、旧愛知県立豊田東高等学校の跡地に「文化創造拠点」と「歴史継承拠点」の2施設の配置を計画したが、その後の財政状況等の変化により、具体的な進展がないまま現在に至っている。

そこで、改めて市民の文化活動状況や施設の利用状況等の調査を行うとともに、既存施設が抱える課題や現状等を分析する。その結果を踏まえて、文化ゾーンにおける「文化創造」及び「歴史継承」の拠点施設に関する整備の方向性について、客観的・全市的な視点から広く専門家、市民の意見を反映するため、豊田市生涯学習審議会（以下「本審議会」という。）に諮問するものである。

1 これまでの検討経緯

文化創造拠点	歴史継承拠点
平成2年8月 豊田市文化ゾーン整備基本構想を策定 毘森公園から美術館周辺までの62.5haを「文化ゾーン」として位置づけ	平成2年8月 豊田市文化ゾーン整備基本構想において、美術館・博物館の文化ゾーン内での建設を計画
平成3年6月 愛知県に県立豊田東高等学校移転の陳情書を提出	平成15年3月 「豊田市教育行政計画」において、既存施設（旧図書館）を利用した博物館機能の充実がうたわれる。
平成15年3月 県立豊田東高等学校用地を愛知県から取得（実測面積 35,948.19㎡）	平成16年3月 第6次総合計画の中期推進計画に、教育行政計画と同じ内容が記載される。
平成19年4月 県立豊田東高等学校移転（御立町）	平成20年3月 第7次豊田市総合計画に「（仮）ふるさと歴史館整備事業」を位置づけ
平成19年7月 旧県立豊田東高等学校校舎を愛知県から無償譲渡	平成20年4月 郷土学習スクールサポート事業を開始（～現在）
平成19年12月 （仮）豊田市文化交流センター整備基本構想市民会議発足	平成20年度 （仮）ふるさと歴史館基本構想検討委員会（全6回）。基本構想（素案）を作成。
平成20年3月 第7次豊田市総合計画に「（仮）豊田市文化交流センター整備事業」	平成21年度 （仮）ふるさと歴史館基本構想検討委員会（全5回・内部検討）
平成20年5月 （仮）豊田市文化交流センター整備基本構想市民会議による答申	

平成22年3月

「豊田市文化ゾーン基本構想」を決定

文化ゾーン区域を豊田市民文化会館、豊田市美術館を中心とした南側26haに縮小し、旧県立豊田東高等学校跡地に「文化創造拠点」と「歴史継承拠点」を位置づけ、「鑑賞」「創造」「発表」「歴史継承」の4つの機能を整備していくことを決定

※事業名変更（青少年センター機能を外す）

（仮）豊田市文化交流センター整備事業⇒（仮）豊田市文化創造センター整備事業

平成22年度

（仮）ふるさと歴史館基本構想検討委員会（全3回・内部検討）

平成23年10月

公共建築物最適化プロジェクトにおいて「（仮）豊田市文化創造センター整備事業」及び「（仮）豊田市ふるさと歴史館整備事業」が「優先的に実施すべき事業から外れる事業」となる

平成23年11月

行政経営会議において「地域資料館の再構築について」を付議し、（仮）ふるさと歴史館と地域資料館が、展示や講座等で有機的に連携する資料館ネットワークの方向性について承認

平成25年4月

第7次豊田市総合計画の後期実践計画においては、「文化創造拠点」及び「歴史継承拠点」整備事業は掲載されず

2 現状と課題

(1) 文化創造拠点

○取り巻く社会情勢の変化

平成25年6月 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」施行

*劇場、音楽堂等の本来の機能が十分発揮されていない、施設の整備が先行し、事業の実施や人材の配置が急務などの課題を受け、劇場、音楽堂等に関する位置づけを明確化

平成27年5月 「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）」閣議決定

*重点戦略の一つに「文化芸術を創造し、支える人材の充実及び子供や若者を対象とした文化芸術振興策の充実」（平成13年 「文化芸術振興基本法」成立）

平成28年4月 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」施行

*社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮に関する環境の整備が必要

平成26年度に行った「文化芸術活動に関してアンケート調査」及び「公共施設の利用状況調査」の結果から、文化創造拠点に関する現状と課題を整理すると次のことがあげられる。

○豊田市の現状

- ・新規の施設整備や設備・機能の充実などのハード面よりも、実施事業や施設の運営などのソフト面に対するニーズが高い。
- ・既存施設の稼働率などの利用状況を見ると、全体的にはスペースが不足している状態にはない。
- ・日頃の文化活動に利用する公共施設としては、身近な交流館の割合が最も高く、中央施設を利用する分野や場面は限られている。
- ・日常的に鑑賞や創作活動をしている人は減少傾向にある。

○課題

- ・既存施設の機能改善を行うことにより、施設の利用向上を図り、より活発な文化活動が行えるような環境整備が求められている。
(利用料金・時間など運営面の改善、既存設備や機能の拡充、既存空間の有効活用など)

(2) 歴史継承拠点

○取り巻く社会情勢の変化

- 平成23年2月 「文化芸術の振興に関する基本的な方針について」閣議決定
*博物館を、地域振興や観光・産業等に活用する取組みの推進
- 平成23年 「新学習指導要領」施行
*児童・生徒の学習効果を高める「身近な資料館の利用」が推奨
- 平成24年2月 地域の文化財をその周辺環境も含め総合的に保存・活用していく
方策として「歴史文化基本構想策定技術指針」が通知

平成26年度に行った「豊田市郷土資料館に関するアンケート調査」及び「第20回市民意識調査」の結果を含めて、現状と課題を整理すると次のことがあげられる。

○豊田市の現状

- ・市民の2人に1人が「郷土の歴史や文化に対する興味を有している」(51.1%)ものの、近隣自治体よりは低い傾向にある。
- ・一方で、「豊田市の歴史や文化に対する誇りや愛着」は近年急速に高まっており(H19:31.9%⇒H26:50.9%)、地域の歴史・文化へのニーズが高まっている。
- ・現状の郷土資料館は築48年を経過し老朽化が著しく、来館者対応や文化財の収蔵における施設機能の不足が顕著である。また、市町村合併に伴い収蔵保管すべき文化財が増加するとともに、取り扱うべき歴史展示の幅が格段に広がり、現状の施設規模では収蔵と展示が困難である。
- ・市民のニーズは「子どもとともに楽しみながら学べる」「参加体験型」の博物館にあるが、郷土資料館にはそのような機能・空間を配置できていない。
- ・現在の郷土資料館の場所は、150年に一度発生すると予測される災害時には5.5mの浸水区域であり2階まで水没する。市の財産の保管・展示施設として根本的に不適である。

○課題

- ・市民が郷土に愛着をもち、新豊田市としての一体感を醸成していくためには、ふるさとの歴史・文化や自然の魅力を知ることが重要である。
- ・歴史継承拠点が最も重視すべき子どもたちをわくわくさせる環境や、国内外からの来訪者が豊田市の魅力を知るガイド施設としての役割が必要である。
- ・以上の課題を解決し、文化財を次世代へ安全に継承していく役割を強化するためにも、歴史継承拠点の新規整備を検討する必要がある。

3 整備方針

豊田市文化ゾーンに文化・歴史に関する拠点施設を集約することにより、その地域の価値を高め、市民が過去を見つめなおし、未来に向かってよりよい豊田市を創造していくため、豊田市文化ゾーン基本構想に記載された文化ゾーンが持つべき「鑑賞」「創造」「発表」「歴史継承」の4つの基本的機能を今後さらに充実させていくことが必要と考える。

それぞれの拠点の整備方針は、次のとおりとする。

(1) 文化創造拠点

「創造」機能を強化する文化創造拠点については、新たな施設を建設するのではなく、既存の拠点施設である豊田市民文化会館（以下「文化会館」という。）を改修し、ソフト面も含めて機能強化していくことで対応が可能である。

文化会館の改修方針としては、これまでに遅れていたバリアフリー対策を実施し、来館者の利便性を向上させた上で、文化会館の既存の鑑賞・発表機能についても、より使い勝手が良くなるように施設を見直す必要がある。

加えて、創作活動を支援するために、交流館等の地域施設では対応できない大型の器具や専門的な機材、本格的な防音・音響等の設備を整備すること。また、創作活動を人的に支援するため、専門家の配置や創作活動に関する相談窓口の設置等を検討する必要がある。

(2) 歴史継承拠点

歴史継承拠点については、豊田市の歴史や文化財を未来へ継承し、郷土愛を醸成していくための拠点施設として、新規に整備することが必要である。

歴史と自然を一体的に取り上げる総合的な博物館としての整備を基本方針とし、歴史背景・敷地利用・集客等を考慮し（下段）、東高跡地が最適の立地と考える。

[歴史背景]	市域の行財政と文化の中心地であった挙母城（七州城）と城下町に近接している。
[立地]	豊田市を育んだ矢作川や兩岸の段丘などの自然や、挙母の下町と寺部の城下町や猿投山を一望でき、かつ水害の恐れのない文化財の保全に適した高台に立地する。
[コスト]	美術館、文化会館の駐車場やホール、飲食施設が共用可能である。
[敷地利用]	広い敷地内に屋外展示として復元民家や自然を取り込むことで、体験を通した歴史・自然の価値を発信することが可能となり、かつ安らぎと憩いの場を提供できる。
[博学連携]	学校教育との連携を行うために不可欠である講座・飲食の空間や駐車場の整備、また学習意欲を高める演出や仕組みの構築が可能。
[集客]	公共交通機関や自動車の利便性があり、また美術館や文化会館などが近接することによる相乗効果を得ることができる。

施設の規模・機能等の詳細や、市民が身近で親しみやすい施設とする上で必要となる方策等については、今後の施設基本構想・基本計画で検討する必要がある。

4 実現に向けて

今後、文化創造拠点・歴史継承拠点を整備するにあたり、次の項目に留意して進めていく必要があると考える。

【文化ゾーン全体】

ハード

- ・文化ゾーンとしての一体性と楽しさに満ちた散策路等の環境整備
- ・豊田市駅等、公共交通機関の駅や停留所等からのアクセスルートと手段等の整備

ソフト

- ・豊田市の歴史や文化、芸術に関する情報が分かり、自分の知りたいことや活動したいことに出会える仕組みづくり

【文化創造拠点】（文化会館）

ハード

- ・障がいの有無や年齢等にとらわれず、使う側にとっても、見る側にとっても使いやすい施設への改修
- ・大ホール棟の2階部分に集中する大会議室などの利用の少ない施設を、各種練習場、講座室、体験教室等への改修
- ・市民ロビーや屋外スペースも有効活用できるように改修

ソフト

- ・文化関連情報の収集と発信を行い、さまざまな「出会い」を創出
- ・これから活動をはじめたい市民の支援や、さらに質の高い活動へとステップアップをフォローするための相談窓口等の配置
- ・将来の文化芸術活動を担う若年層や若手アーティストの育成を重視した施策展開
- ・施設運営、事業の企画・計画、制度設計などのマネジメントの強化
- ・文化芸術活動を支援するために、専門的知見や高度な技能・企画力を備えた人材を育成する仕組みづくり

【歴史継承拠点】（新博物館）

ハード

- ・豊田市の歴史と自然を伝えるガイダンス施設としての機能
- ・市民の財産である文化財を安全に守り、次世代へ確実に継承するための収蔵と展示環境の整備
- ・歴史継承拠点における市民活動や生涯学習の核となる、ボランティアルームと学習支援および交流スペース等の場の整備
- ・学校教育との連携を図るために必要な設備と機能の整備
- ・アクティブラーニングや「とよた学」「矢作川学」といった地域学を推進する場の整備
- ・ミュージアムショップやカフェ、緑地空間など、余暇を楽しく過ごすことが可能となり、リピーターを生み出す魅力となる場の整備
- ・来館者が、各地区の地域資料館および史跡等の文化財や自然へと足を運ぶきっかけとなる場の整備

ソフト

- ・市民が歴史継承拠点における活動に積極的に関与していける仕組み
- ・学校教育との連携を図るために必要な人員やプログラムの充実
- ・地域や家族の記録といった身近な歴史資料などを保管していく仕組み
- ・地域の食文化や生物など、身近さが実感できる対象に取り組んでいく仕組み
- ・各地区の特性を尊重した事業展開
- ・文化財保護や博物館活動に必要な人材の確保と育成に加え、博物館から派生する社会的効果を積極的に開拓し、様々な部局や諸団体と連携していくことができる組織体制の確立
- ・矢作川研究所などとの事業連携の検討

【将来への期待】

本審議会では、文化創造拠点と歴史継承拠点の整備方針に焦点を当て、昨年9月から全体会4回、検討部会6回を開催して、検討を進めてきた。

文化ゾーンの整備については、平成2年の「豊田市文化ゾーン整備基本構想」から、平成22年の「豊田市文化ゾーン基本構想」に至るまで、20年近く検討してきた経緯もあり、豊田市における生涯学習の場の整備という観点からも、長年の懸案事項であった。

今回、文化ゾーンにおける「文化創造」「歴史継承」の拠点配置の在り方と、その概要について本答申にまとめることができた。

しかし、文化ゾーン内の各拠点施設が、本市の文化芸術と歴史について、市民のみならず市外に対しても強力に発信していくためには、それぞれが個別に事業を実施するのではなく、密に連携することで、文化ゾーンの有する力を相乗効果的に発揮させていく必要がある。

文化ゾーンは市民が文化芸術に触れ、郷土の歴史を学びながら、様々な活動を行い、憩いの時間を過ごし、様々な体験と出会いをもたらす場である。本答申をきっかけとして、文化芸術・歴史の中核たる都市基盤として文化ゾーンの整備が進み、豊田市の顔となるような整備につながっていくことを期待する。

【資料1】文化創造拠点

【1】豊田市の文化芸術活動の現状（アンケート調査の分析結果）

【市民アンケート】

時期	平成26年6月
対象	無作為抽出 18歳以上75歳以下の市民
配布回収方法	郵送配布、郵送回収（料金受取人払い）
配布数	2,000件
有効回収数	871件
有効回収率	43.6%

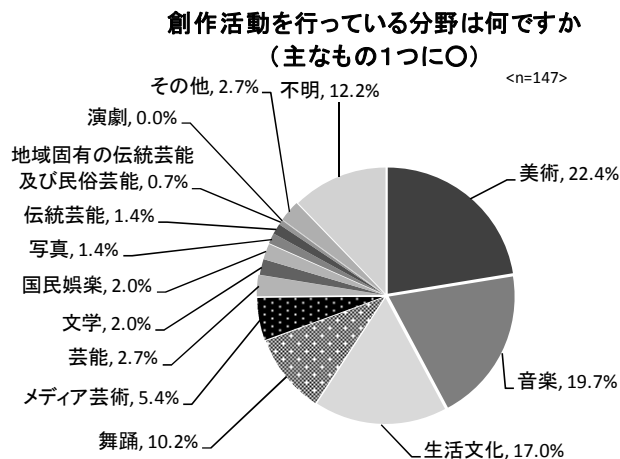
1 活動状況

○文化芸術に興味がある市民の割合

H23: 43.5% → H24: 60.7% → H26: 58.0%

○日常的に創作活動(制作, 練習, 習い事など)を行う市民の割合

H23: 22.0% → H24: 19.4% → H26: 16.9%

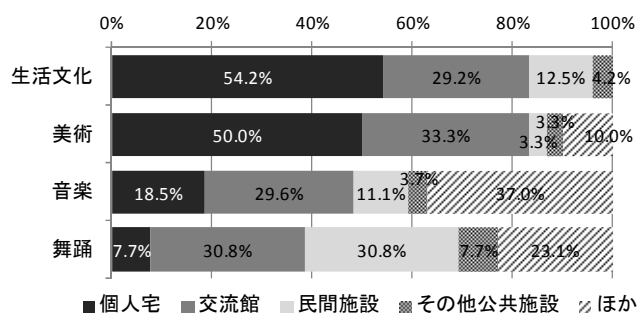


2 創作活動場所について

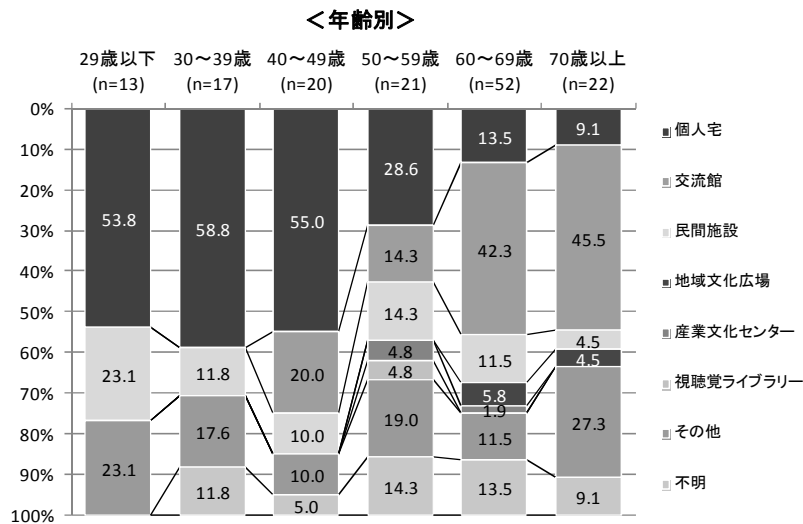
○創作活動場所は、生活文化と美術は個人宅と交流館利用が多い。一方、音楽と舞踊は個人宅の割合が低く、交流館や民間施設など施設利用が多い。施設利用の割合が高い理由は、防音設備が必要なこと、複数人数集まって行うことが多いことによると考えられる。

○創作場所としては、若い人ほど個人宅、高齢になるほど交流館利用が多い。

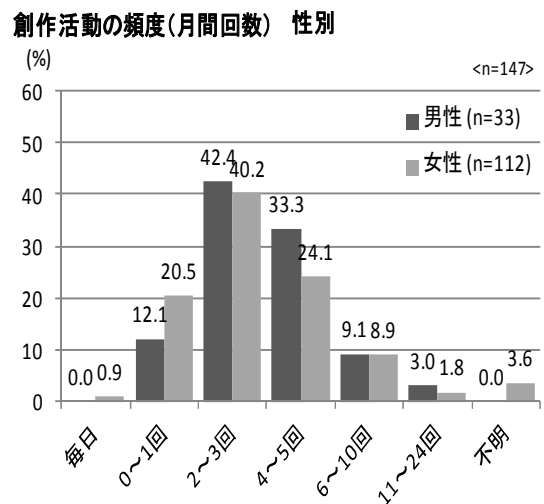
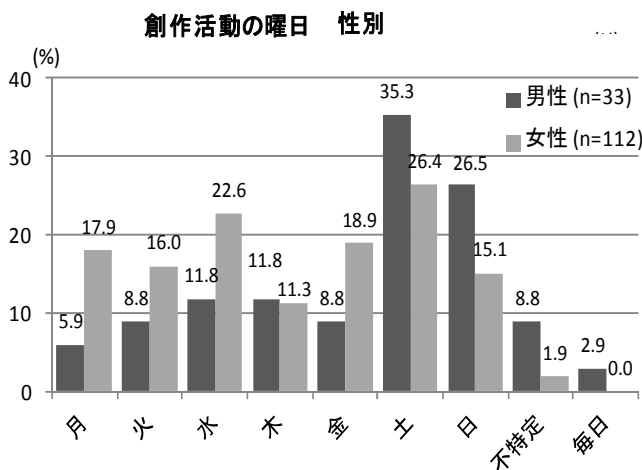
<分野別>創作活動している場所はどこですか(1つに○)



※その他公共施設…交流館を除いた公共文化施設(文化会館、コンサートホール・能楽堂、美術館、市民ギャラリー、地域文化広場、産業文化センター、視聴覚ライブラリー、福祉センター、青少年センター)



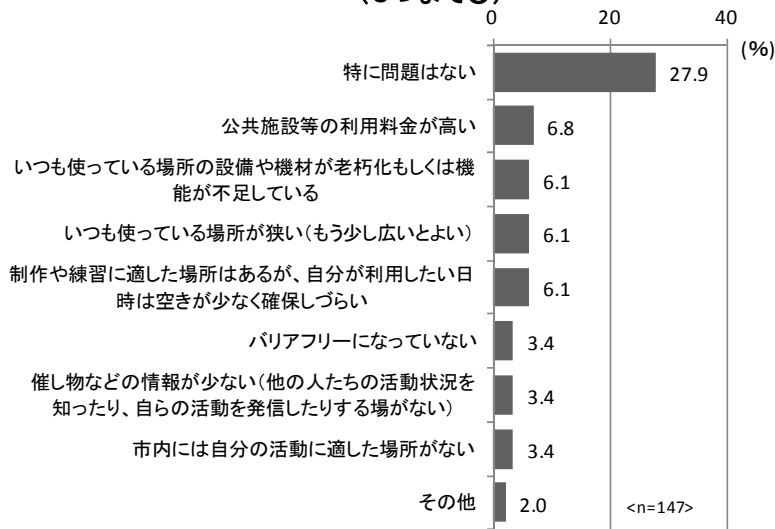
- 創作活動場所までの移動時間は4分の3が20分以内。高齢になるほど、移動時間が短くなり、身近での活動が中心となる。日常的な練習は自宅か職場近くの近所で行う傾向がある。
- 活動は全体的に土日が多いものの、女性は平日の活動も一定あり比較的分散しているが、男性は仕事の都合などにより土日に集中している。創作活動頻度は月に2~3回。



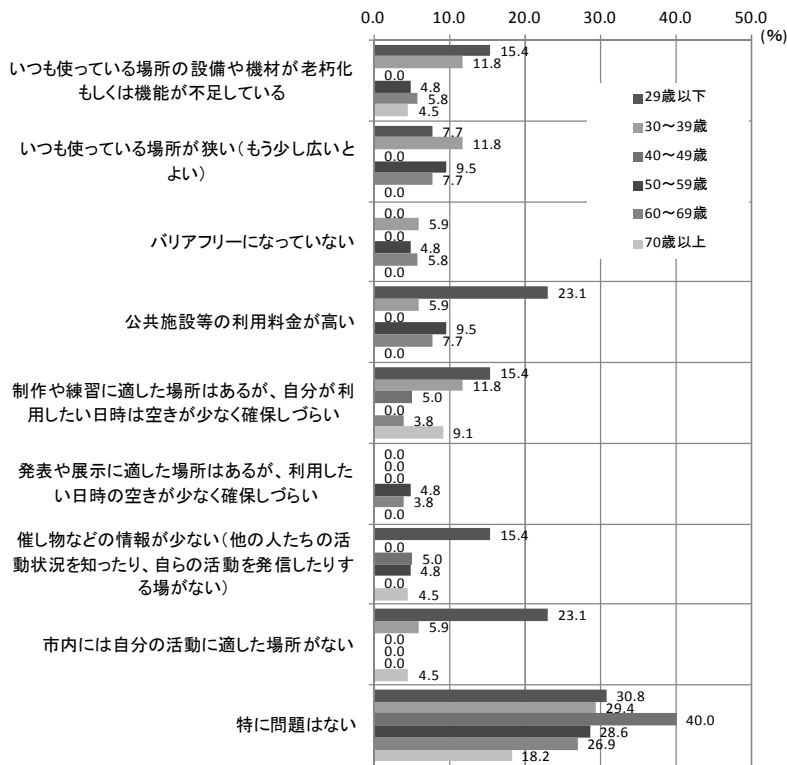
○創作活動をする場所について、困っていることは・・・

- ・「特に問題はない」が最も多い (27.9%)
- ・次いで「料金が高い」、「設備や施設が老朽化もしくは機能が不足」、「場所が狭い」、「利用したい日時は空きが少なく確保しづらい」は、いずれも1割以下(6%台)。
- ・「料金が高い」は、施設利用が多い音楽が13.8%で、美術(6.1%)や生活文化(4.0%)では低い。
- ・「利用したい日時に空きが少なく確保しづらい」は、美術が12.1%、音楽が10.3%。
- ・「場所が狭い」は、美術6.1%、音楽10.3%。
- ・若い人に「適した場所がない」「情報が少ない」「料金が高い」という意見が多い。

創作活動をする場所で困っていることはありますか。
(3つまで○)



<年齢別>



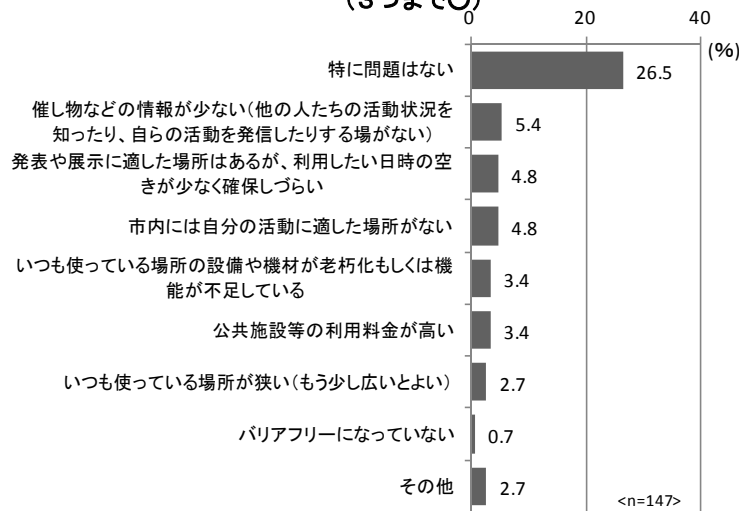
3 発表・展示場所について

○創作活動の発表・展示場所は、交流館が 30.6%、民間施設 12.2% (福祉介護施設、店舗・ホテル、ライブハウスなど)、文化会館 5.1%、コンサートホール・能楽堂 3.1%と続く。分野別では、主な分野（美術、音楽、生活文化、舞踊）はいずれも交流館の割合が 35%前後と高い。

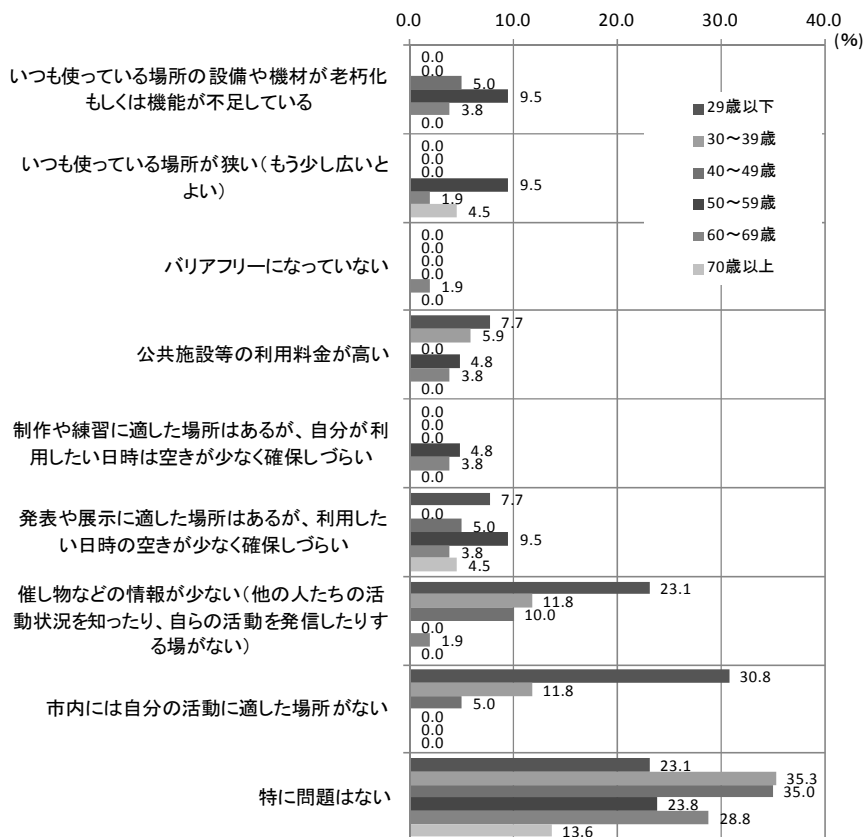
○発表・展示場所について困っていることは・・・

- ・「特に問題はない」が、26.5%、情報発信の場など、困っていることのほとんどが 5%以下。
- ・若い人に「適した場所がない」「情報が少ない」という意見が多い。

発表や展示をする場所で困っていることはありますか。
(3つまで〇)



<年齢別>

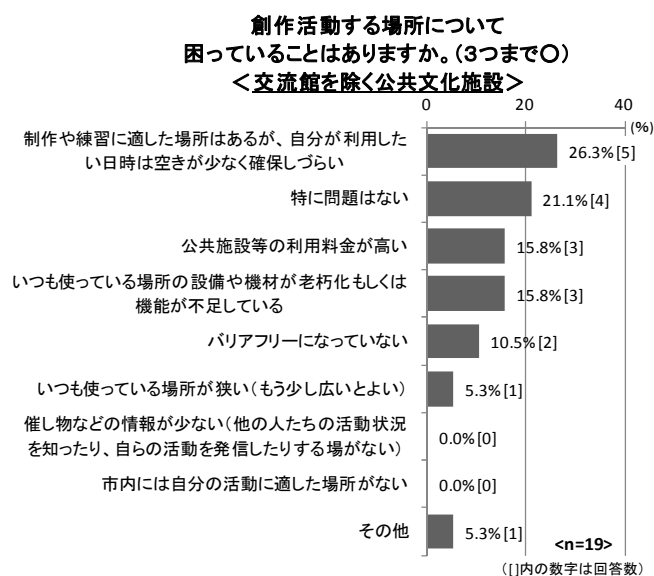


【文化団体アンケート】

時期	平成 26 年 7 月
対象	豊田市文化振興財団登録文化団体関係者
配布回収方法	郵送配布、郵送回収（料金受取人払い）
配布数	281 件
有効回収数	166 件
有効回収率	59.1%

- 文化団体（関係者 281 名）の分野別割合は、生活文化 29.5%、音楽 19.3%、美術 12.7%。
- 創作活動頻度は、月に 4～5 回が最も多く、市民アンケートと比べて、活動頻度が高い。曜日は水曜日が低いが、市民アンケートと同様に土曜日の活動が多い。活動場所は個人宅が 36.8%、次いで交流館 26.3%、民間施設 6.0%、公共文化施設（7 施設合計 14.5%）と続く。活動場所までの移動時間は、市民アンケートと同様、20 分以内が 4 分の 3。
- 創作場所（交流館を除く公共文化施設で主に活動を行っている人：該当者 19 人）が困っていることは・・・

- ・「利用したい日時に空きが少なく確保しづらい」が、19 人中 5 人（26.3%）。
- ・次いで「特に問題はない」が 4 人（21.1%）、「利用料金が高い」、「設備や機材が老朽化もしくは機能が不足」が 3 人（15.8%）となっている。



- 発表や展示の割合は、年に 1～2 回が最も高い。
 - ・発表場所は、文化会館が 20.5%、交流館 13.3%、コンサートホール・能楽堂 7.8%、美術館 4.8%と続く。
 - ・発表場所は、主な分野（生活文化、音楽、美術、舞踊）ではいずれも文化会館の割合が最も高い。

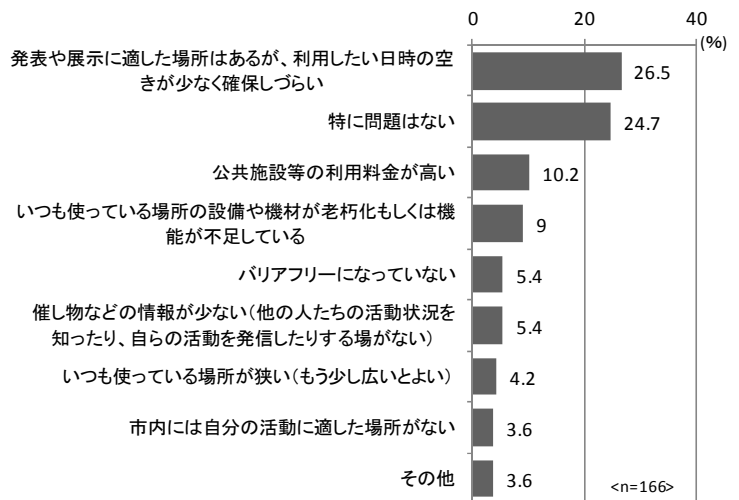
○発表・展示場所で困っていることは・・・

・最も多いのが、「利用したい日時に空きが少なく確保しづらい」が26.5%、次いで、「特に問題はない」が24.7%、「利用料金が高い」、「設備や機材が老朽化もしくは機能が不足」が10%前後、「場所が狭い」「バリアフリーになっていない」が約5%となっている。

○分野別にみると、「利用したい日時に空きが少なく確保しづらい」割合は、音楽46.9%、舞踊42.9%、美術23.8%。施設別では、文化会館50.0%、交流館27.3%、コンサートホール・能楽堂が46.2%。

○文化団体については、創作、発表・展示場所として、文化会館をはじめ公共施設を確保しづらい状況。

発表や展示する場所について、困っていることはありますか。(3つまで○)



【交流館自主グループアンケート】

時期	平成26年7月
対象	市内交流館自主グループ（文化系）会員
配布回収方法	交流館職員の手渡しによる配布、郵送回収（料金受取人払い）
配布数	697件
有効回収数	555件
有効回収率	79.6%

○創作活動の分野は、生活文化19.1%、舞踊18.0%、美術17.7%、音楽14.2%の4分野が7割程度を占め、市民、文化団体と同じような割合。活動は月に2～3回の頻度で、火～土曜日が多い。

○交流館以外での活動場所がある団体は、21.8%。

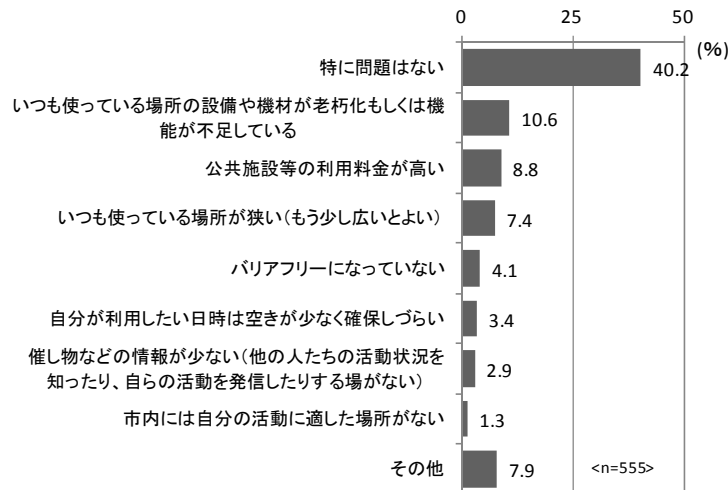
○交流館以外で活動している割合が高い分野は、民俗芸能と演劇（100%）、国民娯楽（58.3%）、芸能（40.9%）などとなっている。交流館以外の活動場所としては、個人宅19.0%と民間施設17.4%と公共施設以外が多い。公共施設では、文化会館4.1%、産業文化センター4.1%などとなっている。

○活動場所までの時間は、9割が20分以内、6割が10分以内と市民アンケートや文化団体と比べて近くの場所を利用する傾向が強い。

○創作場所で困っていることは・・・

・「特に問題はない」の割合が、交流館のみで活動している人は40.2%、交流館以外でも活動している人は41.3%と、いずれも突出して高い。

創作活動している主な交流館で困っていること(3つまで)

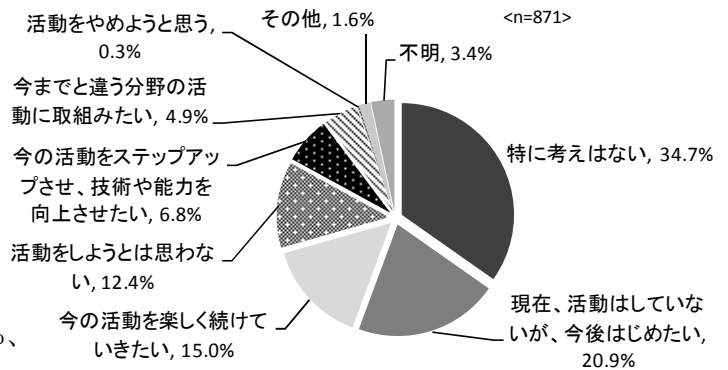


【今後の文化芸術活動について】

○今後の活動について (市民アンケート)

- ・「現在活動はしていないが、今後はじめたい」20.9%
- ・「今の活動を楽しみ続けていきたい」15.0%
- ・「現在活動はしていないが、今後はじめたい」20.9% (約7万人程度) について、今後はじめたい分野は、美術 26.9%、生活文化 17.4%、音楽 13.5%、写真 10.9%。

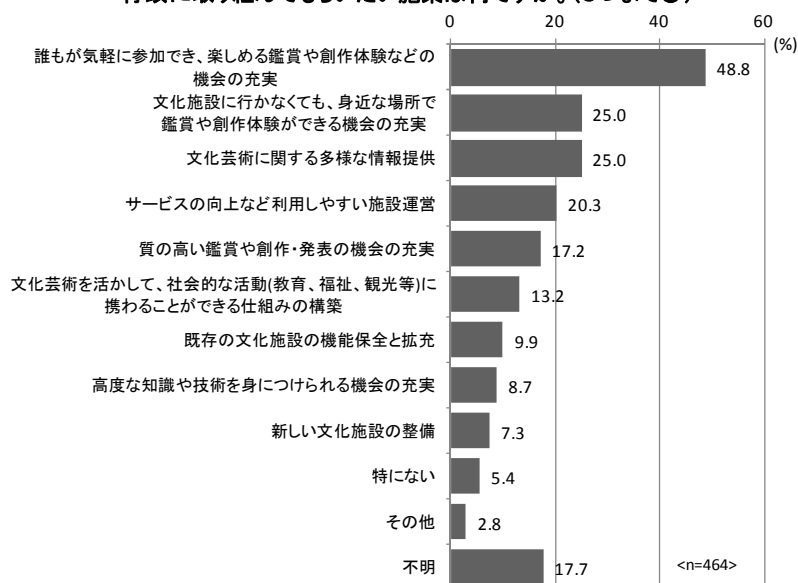
今後の文化芸術活動についてのお考えをお教えてください。(2つまで)



○今後はじめる、または今の活動を充実させるために、行政に望む施策としては、市民、文化団体、交流館自主グループのいずれも、「機会の充実」がもっとも多い。次いで情報提供、サービス向上となっており、ソフト面の施策を望む声が多く、ハード面を望む声は少ない。

○ハード面の意見についてみると、市民対象のアンケートでは、既存施設の機能保全・拡充は9.9%、新規施設の整備の割合は7.3%と低いのに対し、文化団体では、既存施設の機能保全・拡充26.2%、新しい文化施設の整備20.7%と市民アンケートよりも高い。交流館自主グループでも、主に交流館に対して既存施設の機能保全・拡充15.5%が高くなっている。既に文化活動を行っている人のほうが、公共施設利用へのニーズが高いためと考えられる。しかし、いずれも新規整備よりも既存施設の充実への希望が強くなっている。

今後、今の活動を充実させる、もしくは今後活動をはじめるとあって、
行政に取り組んでもらいたい施策は何ですか。(3つまで○)



【創作活動場所、発表場所についてのまとめ】

- ・日常的に鑑賞や創作活動をしている人は減少。つまり、文化施設の利用を支える層が縮小している。
- ・創作活動場所については、市民・団体ともに公共施設の中では交流館をもっとも多く利用している。特に高齢者ほど交流館利用が増える。一方、若い人は自宅が多い。
- ・公共施設を利用している分野は音楽と舞踊の割合が比較的高い(音楽と舞踊の活動をしている人は1.6万人程度と考えられる)。美術や生活文化は個人宅がメイン。利用場所は20分以内で移動できる近場が多いが、高齢者ほど移動距離は短い傾向。

- 文化活動者層の減少が見られ、活動層の増加、文化施設利用者を増加させるための対策が必要。特に若者の利用促進が求められる。
- 増加対策として、参加につながる情報発信、気軽な参加や身近での参加が可能な機会の充実、参加する際に施設が利用しやすいようなサービスの向上などが有効と思われる。
- 日頃の文化活動に利用する公共施設としては、身近な交流館へのニーズが高い。今後の高齢化社会を考えると、より一層この傾向は強まるとと思われる。

- ・創作場所について、市民・交流館自主グループ・文化団体とも「特に問題ない」という回答がもっとも多い。しかし、困っていることの上位をみると「利用料金」が多い。日常的な活動であるため、費用面での負担感を感じる人が多いと考えられる。
- ・一方、既存設備の老朽化や広さ、ハード面に問題を感じているのは、市民・団体とも1割に満たず、特に際立って高い要望が見られる項目はない。しかし、年齢別でみると、若者において場所・情報・料金に対して困っている割合が高い。

- 日常的(定期的)な創作活動の場所に対して、現状への不満は全体的に少ないものの、若者については、若者の場所・情報・料金へのニーズが目立つ。
- ハード面よりもソフト面へのニーズが強い。現状の施設運営面の改善と将来ニーズを取り込むための機会の充実や情報発信が大きな課題。

- ・ 発表・展示場所としては、市民では交流館の利用が3割を占め最も多い。交流館自主グループは4分の3が交流館で創作から発表までを行っている。一方、文化団体は文化会館を利用する傾向が高い。音楽分野ではコンサートホール・能楽堂がメインとなっている。中央の文化施設を発表場所の拠点としている。
- ・ 発表・展示場所について、市民・交流館自主グループでは「特に問題ない」という回答がもっとも多い。一方、文化団体では、「利用したい日時に空きが少なく確保しづらい」と感じる音楽や舞踊分野の文化団体の割合が高い。年齢別にみると、創作場所同様に若者において、場所や情報に困っている割合が高い。

- 一般的な発表・展示は身近な施設を、より本格的な発表・展示には中央の文化施設を利用する傾向が見られる。特定分野（特に音楽や舞踊）で中央の文化施設を確保しづらいケースが目立つ。

【2】全市的施設の機能別利用状況のまとめ

【ホール系】

- ・中規模ホールが福祉センターに整備されたことにより、バランスのとれたホール構成となった。
- ・稼働率は文化会館大小ホールが全国平均とほぼ同等以上であるが、それ以外は全国平均を下回っている。
- ・コンサートホールと能楽堂は専用施設として機能。それ以外は多目的に利用されている。

立地	施設	客席数 (席)	稼働率 (%)	利用件数 (H25)	分野別利用件数					
					器楽	声楽	舞踊	演劇	能楽	ほか
文化 ゾーン 内	文化会館 大ホール	1,708	57.8	232	86	20	49	9		68
	文化会館 小ホール	436	63.8	241	56	40	10	20		115
文化 ゾーン 外	コンサートホール	1,004	43.2	204	173	19		4		8
	能楽堂	458	11.4	62	7		33		41	11
	コンサートホール 多目的ルーム (90㎡)		16.1	81	54	7			2	25
	産業文化センター 小ホール	240	40.2	228	23	10	24	4		167
	福祉センターホール	575	29.4	109	39	9	1	2		58
	合計	-	-		438	105	117	39	43	452

※稼働率＝利用コマ数(貸し出した時間帯毎のコマ数の累計)÷利用可能コマ数(貸し出し時間帯毎のコマ数の総計)

【展示室系】

- ・美術館ギャラリーは1週間単位で貸出されているため、稼働率が高いが、他の施設は40～50%前後である。
- ・いずれの施設でも絵画・イラストの利用がもっとも多い。次いで、工芸や書道、生花・盆栽となっている。

立地	施設	規模 (㎡)	稼働率 (%)	利用件数 (H25)	分野別利用件数						
					絵画、 イラスト	彫刻、 立体	手芸	書道	工芸	生花・ 盆栽	ほか
文化 ゾーン 内	文化会館 展示室A	593.0	39.1	148	26			15	23	11	73
	文化会館 展示室B	144.0	50.9	196	52			20	43	5	76
	美術館ギャラリー	216.0	62.9	21	9	1		1	2		8
文化 ゾーン 外	市民ギャラリー 展示室A	136.0	40.6	95	41			9	6	3	36
	市民ギャラリー 展示室B	160.0	47.7	147	77			15	10	3	42
	市民ギャラリー 展示室C	149.8	40.3	117	65			12	4	3	33
	合計	-	-		270	1	0	72	88	25	268

【練習室系】

- ・稼働率は20～40%台が多い。中には10%前後と低い施設もあり、施設の利用を高める工夫が必要である。
- ・利用分は、器楽と声楽の2分野がほぼ同数でもっとも多い。施設別には、視聴覚ライブラリーが器楽を除いた幅広い分野に利用され、一方コンサートホール、音楽練習場は器楽中心、文化会館は舞踊中心である。

立地	施設	規模 (m ²)	稼働率 (%)	利用件 数 (H25)	分野別利用件数							
					器楽	声楽	舞踊	演劇	映像	俳句・ 短歌	絵画・ 行状	ほか
文化 ゾーン	文化会館 リハーサル室	228.0	26.5	121	32	6	75					8
	文化会館 練習室A	44.0	37.3	281	25		188					68
	文化会館 練習室B	50.0	9.5	40	22							18
	文化会館 練習室C	97.0	38.8	239	28		192					19
文化 ゾーン 外	コンサートホール リハーサル室1	98.0	12.3	71	56	8		1				6
	コンサートホール リハーサル室2	93.0	14.5	82	56	8		1				17
	視聴覚ライブラリー 第1研修室	103.5	33.8	424		200	28	75		3		118
	視聴覚ライブラリー 第2研修室	46.1	40.3	506		252		58		3		213
	視聴覚ライブラリー 集会室	191.5	35.0	440		213	25	63	26	6	13	94
	視聴覚ライブラリー 控室	33.1	30.7	385		232		42	27	6	13	65
	視聴覚ライブラリー 第1会議室	147.9	28.7	360		68		21	3	16	4	248
	視聴覚ライブラリー 第2会議室	103.5	41.2	518		112		98	1		2	305
	音楽練習場 大ホール	256.0	43.3	276	255	51						
	音楽練習場 中ホール	109.0	45.4	258	152	106						
	音楽練習場 小ホール1	60.0	44.1	270	201	69						
	音楽練習場 小ホール2	48.0	37.6	211	162	49						
	青少年センター 音楽室	48.0	60.0	530	450							80
	合計	-	-		1,439	1,374	508	359	57	34	32	1,259

【資料2】歴史継承拠点

【1】郷土資料館の現状と博物館の将来像（アンケート調査の分析結果）

【市民アンケート】

時期	平成 26 年 9 月
対象	無作為抽出 13 歳以上
配布回収方法	郵送配布、郵送回収（料金受取人払い）
配布数	2,049 件
有効回収数	981 件
有効回収率	47.9%

【教職員アンケート】

時期	平成 26 年 9 月
対象	市内の小学 4・6 年生担任、社会科主任より各学校 3 人まで／市内の中学校社会科教員
配布回収方法	公達便による配布・回収
配布数	290 件
有効回収数	290 件
有効回収率	100%

【小学生アンケート】

時期	平成 26 年 9 月
対象	市内小学校 20 校の 6 年生
配布回収方法	公達便による配布・回収
配布数	1,119 件
有効回収数	1,102 件
有効回収率	98.5%

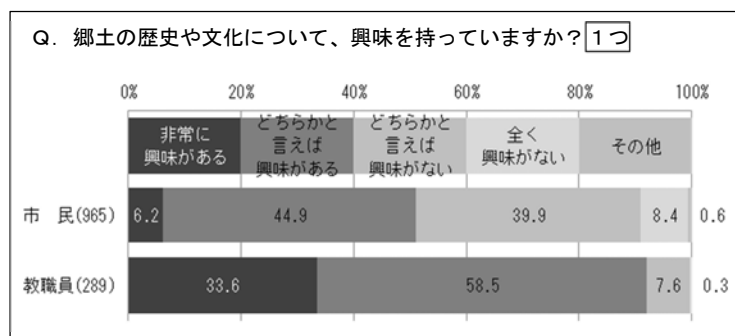
1 郷土の歴史・文化について

市民 ほぼ半数が興味を持っている。

※平成 26 年に実施した市民意識調査でも、豊田市の歴史・文化に誇りや愛着を持っている市民は 50.9%との結果が得られており、平成 19 年の 31.9%から急激に増加している。

教職員 市民に比べて興味が高い。

[属性別]・「どちらかと言えば興味がない」が比較的高い属性は「20 歳代」「勤務期間 5 年未満」。



●新任も間もない教職員は市外出身者が主体を占め、市の歴史・文化への関心が浅いと考えられるため、その興味を喚起する仕組みと場が必要。

2 「博物館」について

○利用したことのある施設

市民

- ・豊田市美術館等、市内外の美術館が上位を占める。
- ・歴史系の博物館では、名古屋市博物館に次いで豊田市郷土資料館が上位（7位）となっている。

教職員

- ・校外学習では、「豊田市郷土資料館」の利用が圧倒的に多く、次いで「近代の産業とくらし発見館」。
- ・10件以上の回答があった9施設中、8施設が豊田市内の施設である。
- ・施設の種類のうち、豊田市郷土資料館をはじめ各地区の資料館、歴史をテーマにした博物館等が多い。

○博物館に対するイメージ

- ・「学べる・ためになる」ところのイメージが高い。一方で、「難しい」と感じる人も2~3割程度見られる。
- ・「つまらない」と感じる割合は低いものの、**教職員**・**小学生**に比べ、**市民**では「楽しいところ」と感じる割合も低い。

市民 [属性別]

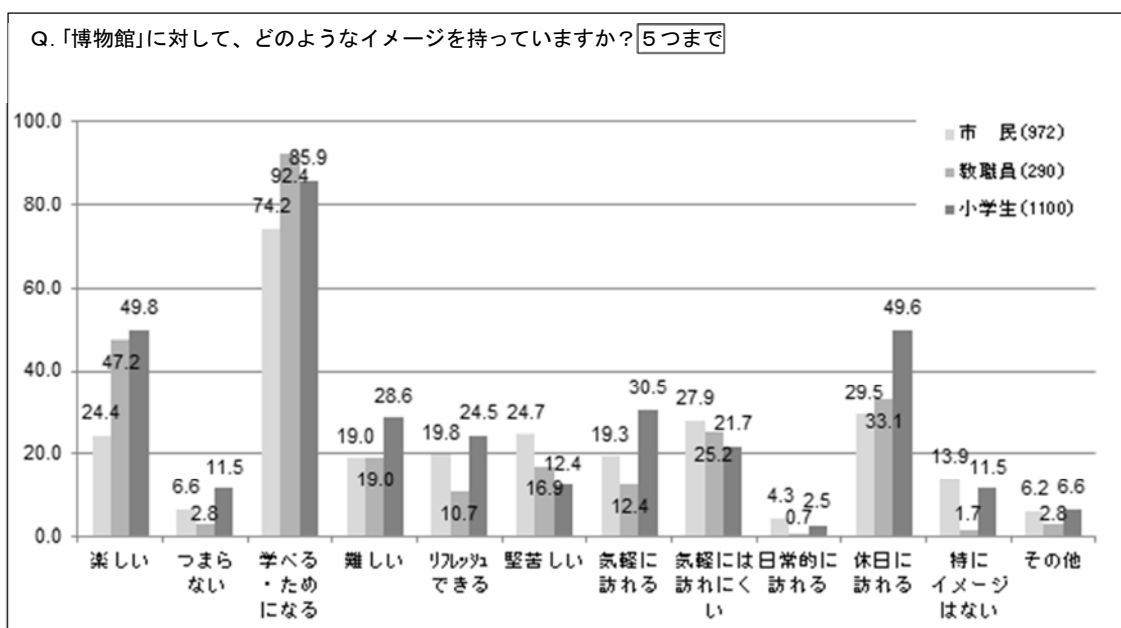
- ・「郷土史等に対する興味」が低いほど、「難しい」と感じる割合が高い。また、「63歳以上」「無職」で、「特にイメージはない」とする割合が高い。

Q. これまでに博物館や美術館等を利用したことはありますか？（市外も含む）自由回答 n=665

No.	カテゴリ名	館種	n	%
1	豊田市美術館	美術	410	61.7
2	名古屋市美術館	美術	141	21.2
3	愛知県美術館	美術	95	14.3
4	トヨタ博物館	産業	78	11.7
5	徳川美術館	美術	76	11.4
6	名古屋市博物館	歴史	72	10.8
7	豊田市郷土資料館	歴史	68	10.2

Q. 校外学習で利用したことのある博物館等の施設はありますか？（市外も含む）自由回答 n=175

No.	カテゴリ名	館種	n	%
1	豊田市郷土資料館	歴史	110	62.9
2	近代の産業とくらし発見館	歴史	30	17.1
3	名古屋市科学館	科学	24	13.7
4	トヨタ鞍ヶ池記念館	産業	13	7.4
5	三州足助屋敷（足助地区）	歴史	12	6.9
6	足助資料館（足助地区）	歴史	11	6.3
7	豊田市美術館	美術	10	5.7
	とよた科学体験館(方納りか)	科学	10	5.7
	藤岡民俗資料館（藤岡地区）	歴史	10	5.7



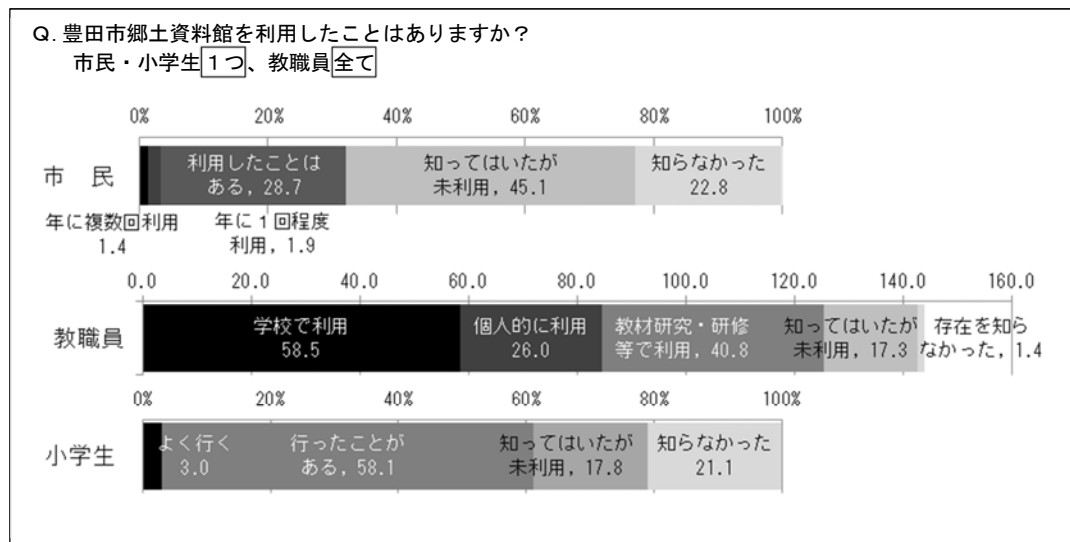
●博物館に対するイメージを持たない属性（「63歳以上」「無職」等）への働きかけが必要。

3 現在の豊田市郷土資料館について

○認知度

- 郷土資料館の存在を、**市民**・**小学生**の2割が認知していない。一方、**教職員**ではほとんどが認知している。

[属性別]市民では認知していない割合が高い属性は、「男性」「23-32歳」「33-42歳」「会社員・会社役員」「単身世帯」



- 若い世代の市民に対するPRが必要。
- 郷土の歴史や文化に対して興味があるにもかかわらず、郷土資料館を認知していない市民が見られる。
- 郷土資料館の認知度の向上、来館のきっかけづくりが課題。

○利用経験

- 市民**で最も多い回答は「知っているが利用したことがない」。利用経験がある割合は、**市民**(約3割)に比べ**小学生**(約6割)の方が高い。また、学校で利用したことのある**教職員**は半数以上に上る。

[属性別]

- 市民**で、利用経験があると答えた割合が特に高い属性は、「13-22歳」「学生」。特に低い属性は、「23-32歳」「33-42歳」「会社員・会社役員」「単身世帯」。

また、「年に複数回利用している」割合が高い属性は、「43-52歳」「63歳以上」「公務員・団体職員」。さらに、郷土史等に対する興味が高いほど、郷土資料館の認知度、利用経験、利用頻度ともに高い。郷土史等に対して全く興味がない市民では、6割近くが郷土資料館の存在を認知していない。

- 教職員**で、年齢が高いあるいは通算勤務期間が長いほど、「学校で利用」した割合が高い。また、「小学校」の教職員は「学校で利用」が最も多く、「中学校」の教職員は「教材研究・研修等で利用」が多い。
- 小学生**では、旧豊田市に比べ、旧町村に居住する小学生のほうが、認知度も利用経験も高い。

- 若い世代の市民に対して、利用のきっかけづくりが必要。
- 郷土史等に対する興味を高め、郷土資料館の利用を促進する必要がある。

○来館の様子

市民

- ・郷土資料館への交通手段：「自動車」が主体。鉄道や路線バスの利用が高い属性は、「13-22歳」「学生」「三世代家族」。また、「13-22歳」では、徒歩、自転車なども利用している。
- ・来館目的：「企画・特別展示の観覧」が最も多く、次いで「常設展示」、「敷地内の民家や古墳等の観覧」。

小学生

- ・来館形態：「学校で」の来館が圧倒的に多く、次いで「家族といっしょに」が多い。旧豊田市に比べて旧町村では、「家族といっしょ」の来館が少ない。
- ・来館目的：「学校で校外学習を行うため」が最も多く、次いで「展示を見学するため」が多い。旧豊田市に比べ、旧町村のほうが「展示を見学するため」「イベントに参加するため」が少ない。

- 子どもや学生の来館のため、公共交通手段の確保が必要。
- 日常的な利用につながる敷地内の民家や古墳等の活用も求められている。

○教職員によるスクールサポートの利用

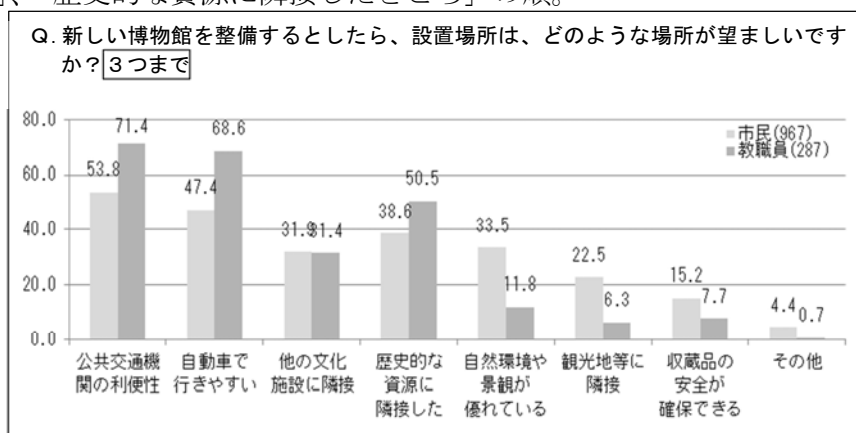
- ・スクールサポートを利用したことがあるのは4割程度で、半数が「知ってはいたが利用したことはない」。利用経験が高いのは「40歳代」「郷土史等に対して非常に興味がある」。利用経験が特に低いのは、「30歳代」「通算勤務期間5年未満」「郷土史等にどちらかと言えば興味がない」。
- ・利用したメニューは、「出前授業」が最も多く、次いで「資料館・展示の見学」。
- ・利用していない理由は、「学習の時間がとれない」が最も多い。また、「利用方法が分からない」「必要性を感じない」「利用したいメニューがない」という回答も、それぞれ1割前後見られる。
- ・スクールサポートの存在を知らなかった教職員は1割強。「女性」「郷土史等にどちらかと言えば興味がない」属性に多い。

- 全ての教職員に対する認知に向けた情報提供が課題。
- 若い教職員に、スクールサポートへの興味を高め活動イメージを明確に伝える工夫が必要。
- スクールサポートに関する情報提供、メニュー改善・工夫が必要。

4 新しい博物館について

○望ましい設置場所

- ・市民、教職員とも、「公共交通機関の利便性が高いところ」が最も多く、次いで「自動車で行きやすいところ」、「歴史的な資源に隣接したところ」の順。



- 公共交通機関と自動車での利便性の確保が求められている。

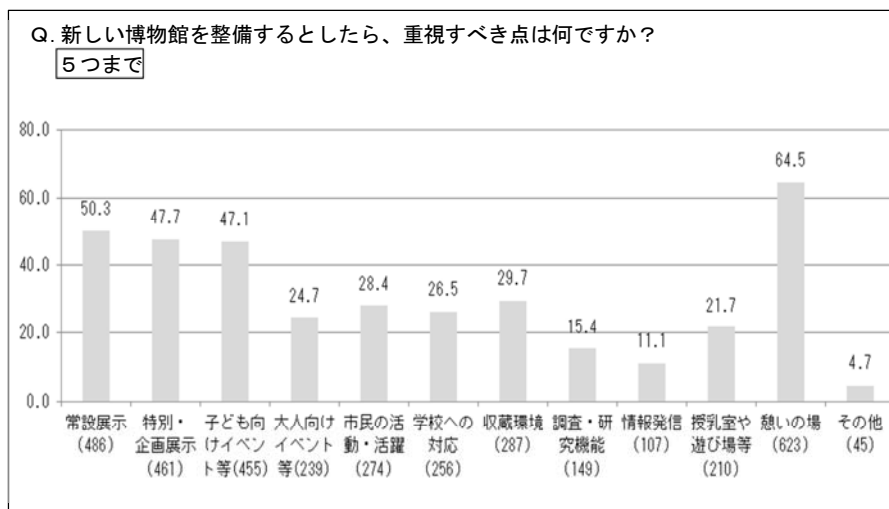
○備えるべき要件

市民

- 最も重視するのは「憩いの場の充実(レストランやカフェ、ミュージアムショップ等)」で、次いで「常設展示の充実」「特別・企画展示の充実」「子ども向けイベント等の充実」。

[属性別]

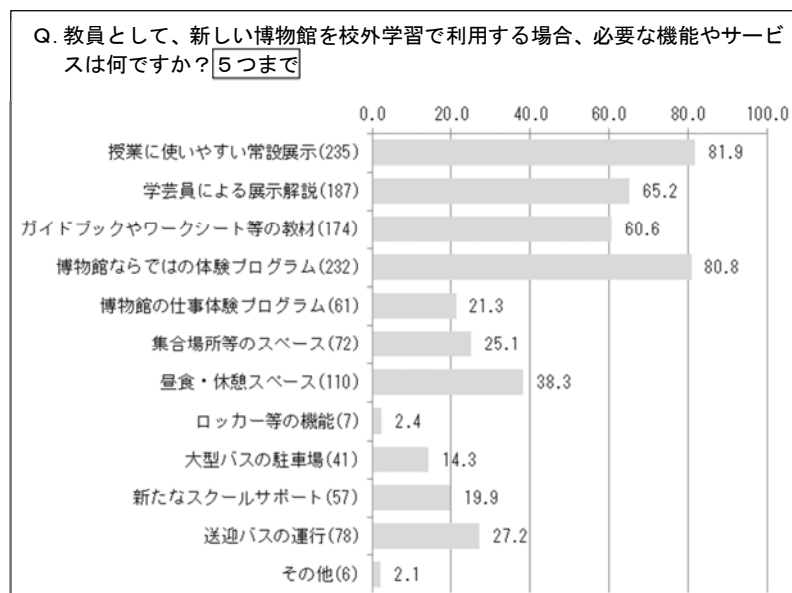
- 「郷土資料館を年に複数回利用する」属性においてのみ、「市の宝を守る収蔵環境の充実」が最も多い。
- 「常設展示の充実」が比較的高い属性は、「53-62歳」「63歳以上」「公務員・団体職員」「無職」「郷土史等に非常に興味がある」「郷土資料館を年に複数回利用する」。
- 「特別・企画展示の充実」が比較的高い属性は、「53-62歳」「郷土史等に非常に興味がある」「郷土資料館を年に複数回利用する」。
- 「子ども向けイベント等の充実」が比較的高い属性は、「23-32歳」「33-42歳」「子育て家族」「郷土史等にどちらかと言えば興味がない」。



○校外学習に必要な機能やサービス

教職員

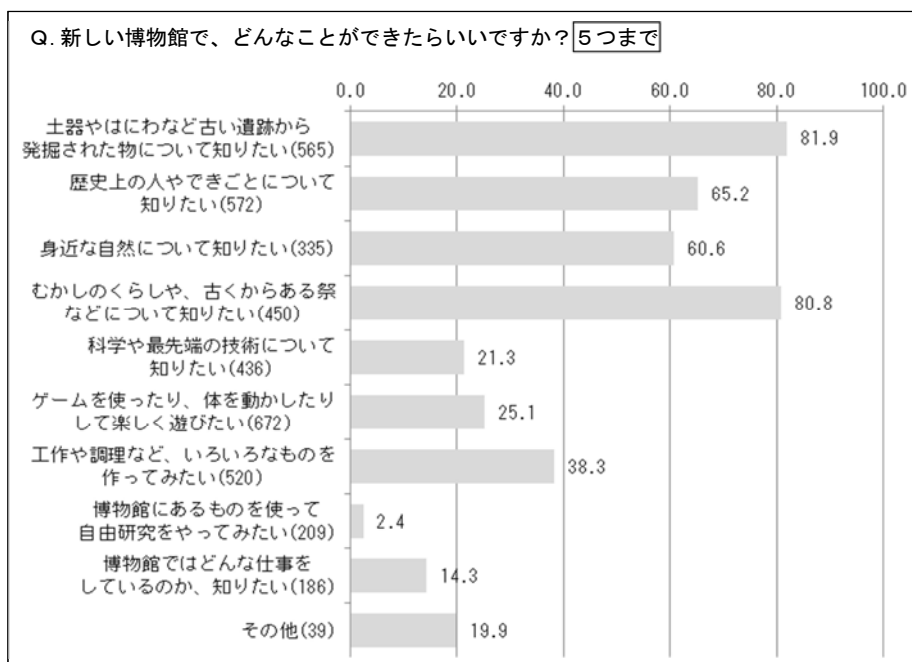
- 8割を超える教職員が希望しているのは、「授業に使いやすい常設展示」「博物館ならではの体験プログラム」。
- 6割を超える教職員が希望しているのは、「学芸員による展示解説」「ガイドブックやワークシート等の教材」。
- 利用者サービスの面では、「昼食・休憩スペース」「送迎バスの運行」。



○新しい博物館でやってみたいこと

小学生

- ・多い回答は、「ゲームを使ったり、体を動かしたりして楽しく遊びたい」「歴史上の人やできごとについて知りたい」「土器やはにわなど古い遺跡から発掘されたものについて知りたい」「工作や調理など、いろいろなものを作りたい」。
- ・「工作や調理など、いろいろなものを作りたい」は「女子」のほうが高く、「科学や最先端の技術について知りたい」は「男子」のほうが高い。



- 「憩いの場の充実(レストランやカフェ、ミュージアムショップ等)」への要望が高い。
- 「常設展示の充実」は市民からの希望が高く、教職員からも「授業に使いやすい常設展示」が望まれている。また、小学生の意向を踏まえ、ゲームやハンズオン等の手法を取り入れることが望まれる。
- 「特別・企画展示の充実」は、来館頻度の高い属性からの要望が高いことから、利用者確保に有利である。
- 「子ども向けイベント等の充実」は、郷土資料館を認知していない割合が高い世代(「23-32歳」「33-42歳」等)からの要望が高く、認知度を高め利用を促進するためのきっかけとして期待できる。
- 学校利用を促進するためには、「博物館ならではの体験プログラム」「学芸員による展示解説」「ガイドブックやワークシート等の教材」「昼食・休憩スペース」「送迎バスの運行」等が必要。

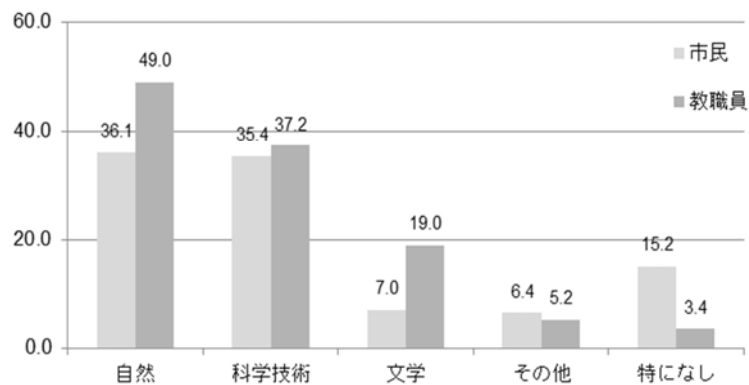
○歴史・民俗以外に取り上げてほしい事柄

- ・**市民**、**教職員**とも「自然」が最も多く、次いで「科学技術」。ただし、**市民**では「自然」と「科学技術」はほぼ同レベル。**教職員**では「自然」が特に多く半数の支持を得ている。

[属性別]

- ・**教職員**では、ほとんどの属性で「自然」が「科学技術」を上回って最も多いが、「勤務期間5年以上10年未満」では「科学技術」が最も多い。

Q. 新しい博物館を整備するとしたら、「歴史」「民俗・芸能」以外に取り上げてほしい事柄は何ですか？1つ



- 「自然」「科学技術」に関わるテーマの展示や活動が期待されている。

○新しい博物館に求める要素（自由回答）

- ・ **市民**からは「子ども」というキーワードが最も多く挙げられており、「子どもとともに楽しみながら学べる施設」が求められている。加えて、「子どもがいても気兼ねなく利用できる施設」を求める意見も見られた。テーマについては、「郷土の歴史」を中心に多様な意見が挙げられているが、「参加体験型」であることを求める意見が多く見られた。また、「カフェなどの飲食施設」への要望が高い。
- ・ **教職員**からは、「体験できる展示」「さわれる展示」を求める意見が多く見られた。展示テーマとしては、「郷土史をよりわかりやすく伝える展示」「実物資料などを活かした博物館ならではのしくみづくり」が求められている。また、「学芸員などによる展示解説」「映像による解説」等の活用を求める意見が見られた。教育普及については、博学連携に関する要望として、「学校との連携強化」を求めるとともに、「コーディネーターの配置」「指導案の開発」「情報発信手法」など、具体的な強化策に対する意見が見られた。運営・サービスについては、「送迎バスの運行など移動手段の確保」が求められている。

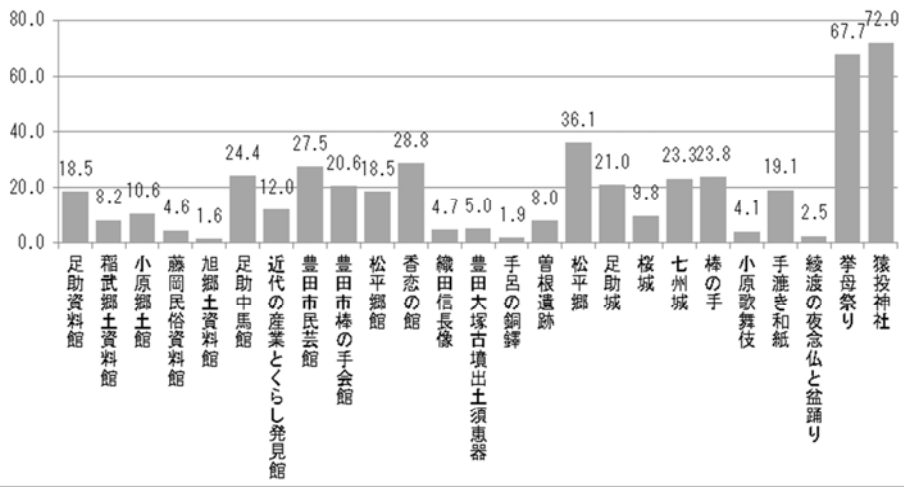
- 広い世代が気兼ねなく来館し、楽しく時間を過ごせる仕組みと場が必要。
- 参加体験型の展示など、郷土史の魅力と内容をわかりやすく伝える仕組みが必要。
- 学校利用については、送迎バスの設置など利用促進を図る仕組みが必要。

5 市内の地域資源等について

市民

- ・ 市内の地域資源で最も多く利用されているのは、「猿投神社」「挙母祭り」。
 - ・ 資料館等の施設で最も高いのは、「香恋の館」「豊田市民芸館」。
- [属性別]
- ・ 年齢が高いほど、利用経験が高い。
 - ・ 「藤岡民俗資料館」「松平郷館」「松平郷」「足助城」「七州城」「棒の手」「小原歌舞伎」「挙母祭り」については、居住地区による差が見られる。

Q. 市内各地には資料館等の施設や、史跡・伝統芸能等の文化財がありますが、
見学したり参加したりしたことはありますか？該当するもの全て



6 市民が求めている博物館像と今後の課題

(1) 基本理念

子どもとともに楽しみながら学べる施設。郷土の歴史を中心としながら、自然や科学技術に関するテーマも盛り込み、参加体験型を重視。

(2) 事業展開

- ・ **展示**：常設展示、企画・特別展示の充実を図る。郷土史をよりわかりやすく伝えるため、ゲームやハンズオン展示、実物資料や映像等を活かした展示とするほか、自然や科学技術をテーマにした展示も取り入れる。また、学校団体が授業と組み合わせて利用しやすい展示とする。
- ・ **教育普及**：子ども向けイベントの充実を図る。また、歴史を中心に自然と科学技術をテーマにした参加体験型のプログラムを実施する。
- ・ **学校連携**：学校利用を促進するため、博物館ならではの体験プログラム、学芸員による展示解説、ガイドブックやワークシート等の教材、送迎バスの運行、コーディネーターの配置、学習指導案の開発等の導入を検討する。また、既存のスクールサポートの内容の拡充を図るとともに、若い世代の教職員への情報発信を強化する。

(3) 施設

公共交通機関と自動車での利便性を確保できる立地。レストランやカフェ、ミュージアムショップ等市民が憩える場を充実するとともに、学校団体が利用できる昼食・休憩スペースを備えるほか、気軽に利用できる屋外展示等を行う。

(4) 集客戦略

若い世代の市民及び高齢者に対する来館のきっかけづくりを行う。また、郷土史に対する興味を高め、博物館の利用を促進する。

【2】平成26年度文化財施設利用状況

施設名称	活動内容	26年度 入館者数	25年度 入館者数
豊田市旭郷土資料館	旭地区各地から寄贈いただいた約1,500点の資料を展示。	366人	325人
豊田市足助資料館	大正12年に建てられた愛知県蚕業取締所足助支所を利用し、足助地区の歴史・民俗資料を展示。	1,122人	960人
豊田市足助資料館大河原分館		—	—
豊田市足助中馬館	大正元年建築の旧稲橋銀行足助支店社屋を利用し、商業・金融・交通・町並みなどの資料を展示。	19,198人	13,824人
豊田市稲武郷土資料館	稲武地区の歴史・民俗資料を展示。	3,738人	4,589人
豊田市小原郷土館	小原地区の歴史・民俗資料を展示。	906人	417人
豊田市郷土資料館	歴史資料の収集・保存・展示、特別展・企画展の開催。歴史学習・体験講座の開催。	16,023人	15,178人
喜楽亭	挙母下町の町屋建築の保存と伝承のため移築公開、貸出利用。	11,413人	9,492人
豊田市近代の産業とくらし発見館	大正10年建築の愛知県蚕業取締所第九支所を利用し、明治から昭和34年頃までの資料を展示。	14,964人	15,475人
豊田市古瀬間城址公園	古瀬間城址を公開。	—	—
豊田市七州城址公園	七州城址隅櫓と渡邊家書院・茶席又日亭の文化的活動への貸出利用。	—	—
城跡公園足助城	足助城の高櫓・長屋・物見矢倉・厨(くりや)などの建物を復元・公開。	7,254人	6,094人
豊田市曾根遺跡公園	曾根遺跡の竪穴建物などを露出展示し、移築された香九礼1号墳なども公開。	—	—
豊田市藤岡民俗資料館	遺跡から発掘された石器類をはじめとして、藤岡地区の民俗資料や歴史資料などを保管・公開。	1,009人	224人
豊田市棒の手会館	400年の伝統をもつ民間武術棒の手に関する資料の展示と企画展示の開催。	12,636人	10,408人
松平郷館	松平太郎左衛門家伝来の各種資料と松平郷に関する資料の公開展示。	9,595人	11,117人
民芸館・さなげ古窯本多記念館	民芸の基本理念である「衣・食・住」に関する資料展示や講座等を開催。	27,453人	25,526人
合計		125,677人	113,629人

【資料3】市内の文化関連施設の立地状況

①文化芸術に係る中央施設

- 1 福祉センター
- 2 コンサートホール・能楽堂
- 3 市民文化会館
- 4 産業文化センター
- 5 地域文化広場
- 6 市民ギャラリー
- 7 視聴覚ライブラリー
- 8 美術館
- 9 中央図書館

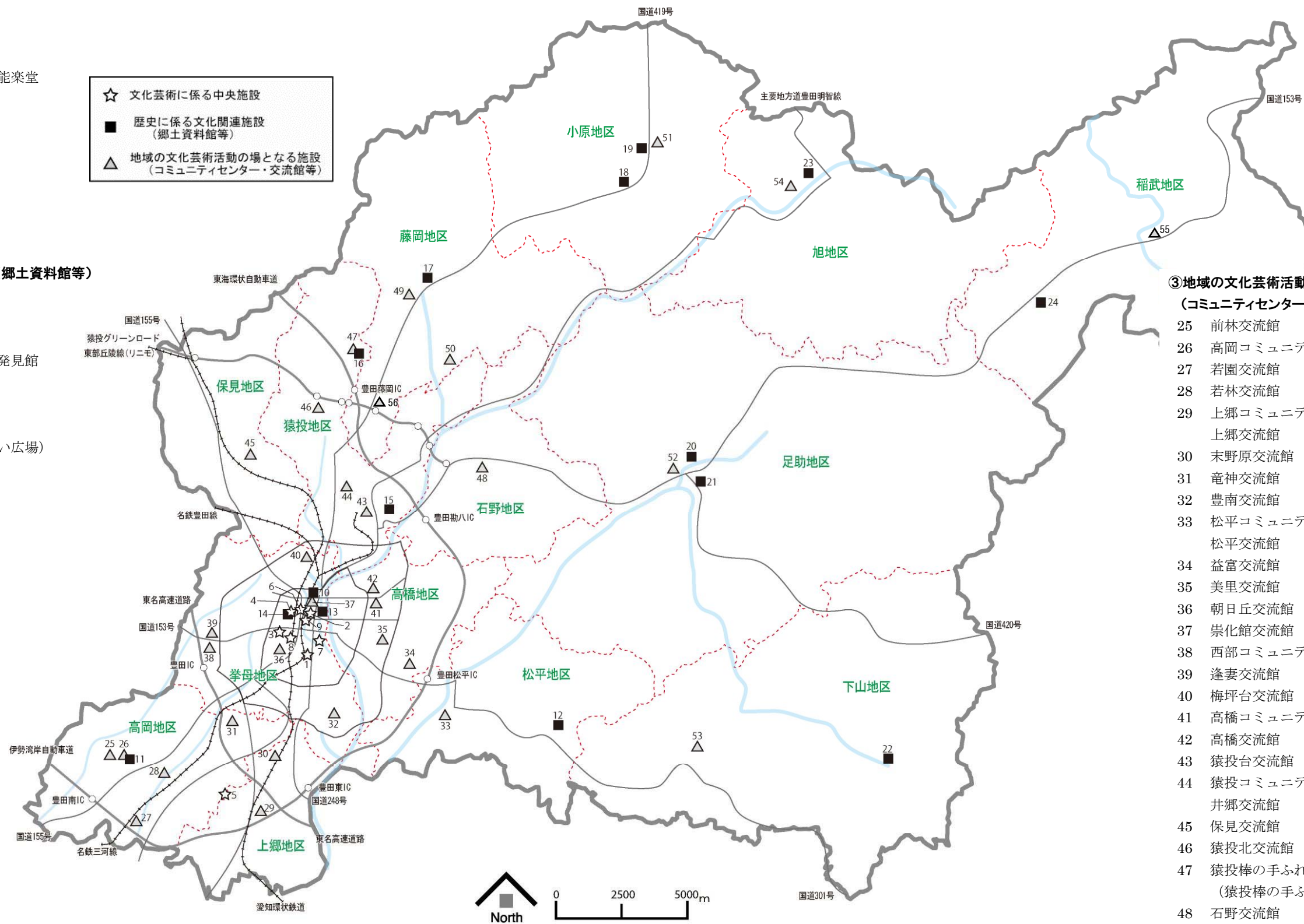
☆ 文化芸術に係る中央施設
 ■ 歴史に係る文化関連施設 (郷土資料館等)
 △ 地域の文化芸術活動の場となる施設 (コミュニティセンター・交流館等)

②歴史に係る文化関連施設(郷土資料館等)

- 10 郷土資料館
- 11 六鹿会館
- 12 松平郷館
- 13 近代の産業とくらし発見館
- 14 喜楽亭
- 15 民芸館
- 16 猿投棒の手会館 (猿投棒の手ふれあい広場)
- 17 藤岡民俗資料館
- 18 小原郷土館
- 19 和紙のふるさと
- 20 足助中馬館
- 21 足助資料館
- 22 香恋の館
- 23 旭郷土資料館
- 24 稲武郷土資料館

③地域の文化芸術活動の場となる施設 (コミュニティセンター・交流館等)

- 25 前林交流館
- 26 高岡コミュニティセンター
- 27 若園交流館
- 28 若林交流館
- 29 上郷コミュニティセンター・上郷交流館
- 30 末野原交流館
- 31 竜神交流館
- 32 豊南交流館
- 33 松平コミュニティセンター・松平交流館
- 34 益富交流館
- 35 美里交流館
- 36 朝日丘交流館
- 37 崇化館交流館
- 38 西部コミュニティセンター
- 39 逢妻交流館
- 40 梅坪台交流館
- 41 高橋コミュニティセンター
- 42 高橋交流館
- 43 猿投台交流館
- 44 猿投コミュニティセンター・井郷交流館
- 45 保見交流館
- 46 猿投北交流館
- 47 猿投棒の手ふれあいホール (猿投棒の手ふれあい広場)
- 48 石野交流館
- 49 藤岡交流館
- 50 藤岡ふれあいの館
- 51 小原交流館
- 52 足助交流館
- 53 下山交流館
- 54 旭交流館
- 55 稲武交流館
- 56 藤岡南交流館



豊田市生涯学習審議会委員名簿

役職	氏名	所属
	伊藤俊満	豊田市小中学校長会 石野中学校長
	今井広	市民公募委員
	大村恵	愛知教育大学教授
	黒沢浩	南山大学教授
	佐藤祐子	豊田市文化振興財団
	代田正晴	市民公募委員
	鈴木信教	豊田文化団体協議会会長
	田中祥雄	東海学園大学学監
	谷口功	椋山女学園大学准教授
	中田繁美	豊田市社会福祉協議会
	永井聡子	静岡文化芸術大学准教授
副会長	西原香保里	愛知みずほ大学短期大学部教授
	原田雅廣 (前) 鵜居利行	豊田市区長会
会長	平野敬一	学識経験者
	丸山宏	名城大学教授
	湊裕	連合愛知豊田地域協議会

豊教文発第882号
平成26年9月26日

豊田市生涯学習審議会
会長 平野 敬一 様

豊田市教育委員会
委員長 山田 勝正

豊田市生涯学習審議会への諮問について

豊田市生涯学習審議会条例（平成26年条例第4号）第3条第1号の規定に基づき、下記の事項について諮問します。

記

1 諮問事項

豊田市文化ゾーンにおける文化創造拠点及び歴史継承拠点の整備方針について

2 諮問理由

平成2年に「文化ゾーン整備基本構想」を策定し、平成22年の「文化ゾーン基本構想」では、旧東高校跡地に「文化創造拠点」と「歴史継承拠点」の2施設の配置を想定したが、その後の財政状況等の変化により、具体的な進展がないまま現在に至っている。

そこで、本年度改めて市民の文化活動状況や施設の利用実態等の調査を行うとともに既存施設が抱える課題や現状等を分析する。その結果を踏まえて、文化ゾーンの施設整備の方向性について、客観的・全市的な視点から広く専門家、市民の意見を反映するため、審議会に諮問するものである。

3 諮問期間

本日から平成28年3月31日まで